



インストール・ガイド

**Replication Server[®] Data
Assurance オプション 15.7.1**

ドキュメント ID：DC01878-01-1571-01

改訂：2012年6月

Copyright © 2012 by Sybase, Inc. All rights reserved.

このマニュアルは Sybase ソフトウェアの付属マニュアルであり、新しいマニュアルまたはテクニカル・ノートで特に示されないかぎり、後続のリリースにも付属します。このマニュアルの内容は予告なしに変更されることがあります。このマニュアルに記載されているソフトウェアはライセンス契約に基づいて提供されるものであり、無断で使用することはできません。

アップグレードは、ソフトウェア・リリースの所定の日時に定期的に提供されます。このマニュアルの内容を弊社の書面による事前許可を得ずに、電子的、機械的、手作業、光学的、またはその他のいかなる手段によっても、複製、転載、翻訳することを禁じます。

Sybase の商標は、Sybase の商標リスト (<http://www.sybase.com/detail?id=1011207>) で確認できます。Sybase およびこのリストに掲載されている商標は、米国法人 Sybase, Inc. の商標です。® は、米国における登録商標であることを示します。

このマニュアルに記載されている SAP、その他の SAP 製品、サービス、および関連するロゴは、ドイツおよびその他の国における SAP AG の商標または登録商標です。

Java および Java 関連のすべての商標は、米国またはその他の国での Oracle およびその関連会社の商標または登録商標です。

Unicode と Unicode のロゴは、Unicode, Inc. の登録商標です。

このマニュアルに記載されている上記以外の社名および製品名は、当該各社の商標または登録商標の場合があります。

Use, duplication, or disclosure by the government is subject to the restrictions set forth in subparagraph (c)(1)(ii) of DFARS 52.227-7013 for the DOD and as set forth in FAR 52.227-19(a)-(d) for civilian agencies.

Sybase, Inc., One Sybase Drive, Dublin, CA 94568.

目次

インストールの計画	1
SPDC または SMP からのライセンスの取得	1
ライセンスの種類	2
サブキャパシティ・ライセンス	3
システムの稼働条件	5
配備のタイプ	6
シングルサーバ配備	6
分散配備	7
Replication Server Data Assurance オプションのインス	
 トール	11
GUI モードでのインストール	11
コマンド・ラインからのインストール	17
応答ファイルを使用したインストール	18
応答ファイルの作成	18
サイレント・モードでのインストール	19
コマンド・ライン・オプション	19
インストール後の使用の開始	21
Replication Server Data Assurance オプションのアンイ	
 ンストール	23
GUI モードでのアンインストール	23
コンソール・モードでのアンインストール	24
サイレント・モードでのアンインストール	24
アップグレードの考慮事項	27
Windows [スタート] メニューのショートカット	27
インストーラ・パラメータ	27
以前のインストールの上書き	27
既存のファイルの上書き	28
インストール設定の保持	28

目次

構成設定	28
新しいインスタンス名	29
Java Runtime Environment	30
追加の説明や情報の入手	31
サポート・センタ	31
Sybase EBF と Maintenance レポートのダウンロード	31
Sybase 製品およびコンポーネントの動作確認	32
MySybase プロファイルの作成	32
アクセシビリティ機能	33
索引	35

インストールの計画

インストールまたはアップグレード前に、環境を準備します。

- インストールまたはアップグレードするコンポーネントとオプションを確認します。
- ライセンスを取得します。
- システムのすべての稼働条件がインストール・シナリオおよび用途に一致していることを確認します。

注意：以前のバージョンからアップグレードする場合は、このドキュメントの末尾の更新の考慮事項を確認してください。

SPDC または SMP からのライセンスの取得

製品をインストールする前に、SySAM ライセンス・モデルを選択して、ライセンス・サーバ情報を決定し、ライセンス・ファイルを取得します。

SySAM 2 対応の Sybase® 製品を購入したときに、SySAM 製品ライセンスを生成し、ダウンロードして、配備する必要があります。

- Sybase または Sybase 認定販売店から製品を購入した場合は、セキュアな Sybase 製品ダウンロード・センタ (SPDC) (<https://sybase.subscribenet.com>) にアクセスしてログインし、ライセンス・キーを生成します。ライセンスの生成プロセスは、製品の注文先が Sybase か Sybase 再販業者かによって若干異なる場合があります。
- SAP® コントラクトで製品を注文し、SAP サービス・マーケットプレイス (SMP) からダウンロードするよう指示された場合は、<http://service.sap.com/licensekeys> で SMP を使用して、SySAM2 ベースのライセンスを使用する Sybase 製品のライセンス・キーを生成します。

以下の手順は、Sybase ソフトウェア資産管理 (SySAM) ライセンスをインストールする場合に必要なアクションの概要です。詳細については、『Sybase ソフトウェア資産管理ユーザーズ・ガイド』を参照してください。

1. SySAM ライセンス・モデルを選択します。

ライセンス・モデル	説明
アンサーブド・ライセンス・モデル	ライセンス・ファイルからライセンスを直接取得します。アンサーブド・ライセンスを使用する場合は、製品をインストールするマシンにライセンスを保存する必要があります。
サブド・ライセンス・モデル	複数マシンに対するライセンスの割り当てをライセンス・サーバを使用して管理します。

- サブド・ライセンス・モデルを選択する場合、既存のライセンス・サーバを使用するか、新しいライセンス・サーバを使用するかを決定してください。
ライセンス・サーバと製品は、インストールするマシン、オペレーティング・システム、またはアーキテクチャが同じである必要はありません。
- サブド・ライセンス・モデルを選択した場合は、次のいずれかの操作を行います。
 - 既存のライセンス・サーバがないマシンに新しいライセンス・サーバをインストールします。
 - SySAM 1.0 ライセンス・サーバを実行しているマシンにインストールする場合は、『Sybase ソフトウェア資産管理ユーザーズ・ガイド』のマイグレーションの指示に従い、新しい SySAM バージョンにマイグレートします。
- Sybase または Sybase 認定販売店から入手したアクセス情報を使用して、SPDC または SMP からライセンス・ファイルを取得してから、製品をインストールします。

次のステップ

SySAM ライセンスの詳細については、『Sybase ソフトウェア資産管理ユーザーズ・ガイド』を、Sybase 製品マニュアル Web サイト (<http://sybooks.sybase.com>) から参照してください。

ライセンスの種類

Replication Server® Data Assurance オプションには REP_DATA_ASSURANCE ライセンスが必要です。

サブキャパシティ・ライセンス

Sybase が提供するサブキャパシティ・ライセンスは、物理マシンで利用可能な CPU のサブセット上にある Sybase 製品をライセンスの対象とします。

プラットフォームのサポート

表 1 : SySAM 仮想化サブキャパシティの互換性

ベンダ	製品	プラットフォームのサポート	仮想化の種類
HP	nPar	HP IA 11.31	物理パーティション
	vPar		仮想パーティション
	Integrity Virtual Machines およびリソース・マネージャ		仮想マシン
	セキュア・リソース・パーティション		OS コンテナ
IBM	LPAR	AIX 6.1、AIX 7	仮想パーティション
	dLPAR		仮想パーティション
Oracle	動的システム・ドメイン	Solaris 10	物理パーティション
	Solaris コンテナ/ゾーン および Solaris リソース・マネージャ		OS パーティション
Intel、AMD	VMWare ESX Server ゲスト O/S : Windows、Linux、および Solaris x64 VMWare Workstation および VMWare Server は、VMWare ESX Server に含まれません。	VMWare ESX 3.5、ESX 4.0 および ESX 4.1、ゲスト OS : Windows 2008 R2、Windows 7、Red Hat 5.6、SuSE 11、Solaris x64	仮想マシン

ベンダ	製品	プラットフォームのサポート	仮想化の種類
	Xen、DomainU：Windows および Linux Xen に Solaris x64 は含まれません。	Windows 2008 R2、Windows 7、Red Hat 5.6、および SuSe 11	仮想マシン

Sybase サブキャパシティ・ライセンスの有効化

サブキャパシティ・ライセンスを有効にするには、事前に Sybase とのサブキャパシティ・ライセンス契約が必要になります。Sybase の他のライセンスと同様に、ライセンス・キーを生成する必要があります。具体的な手順については、『SySAM クイック・スタート・ガイド』を参照してください。

注意： ライセンス・サーバを最新の状態に保ってください。

インストール・メディアには最新の SySAM ライセンス・サーバのコピーが含まれますが、SySAM スタンドアロン・ライセンス・サーバの Web サイト (<http://www.sybase.com/sysam/server>) で定期的にライセンス・サーバの更新をチェックすることをおすすめします。

稼働条件

SySAM サブキャパシティ・ライセンスを使用するときは、インストール前に SYBASE_SAM_CAPACITY 環境変数を設定する必要があります。または、インストール後にライセンス・キーに環境変数をコピーすることもできます。

サブキャパシティのライセンスを使用する場合は、次のいずれかを実行します。

- SYBASE_SAM_CAPACITY 環境変数を設定してからインストーラを起動します。
『SySAM ユーザーズ・ガイド』の「SySAM サブキャパシティの設定」で説明されている手順に従います。ただし、サブキャパシティ対応の Sybase 製品を起動するのではなく、インストーラを起動します。インストーラには、**sysamcap** ユーティリティが `sysam_utilities/bin` に含まれています。
- インストール時に [Sybase ソフトウェア資産管理ライセンス] ウィンドウで [ライセンス・キーなしでインストールを続行] を選択します。インストール後に、`installed_directory/SYSAM-2_0/licenses` ディレクトリにライセンス・キーをコピーします。`installed_directory` は、コンポーネントをインストールした場所です。

システムの稼働条件

インストールする前に、システムのすべての稼働条件がインストール・シナリオおよび用途に一致していることを確認します。必要なシステム・パッチの最新情報については、リリース・ノートを参照してください。

項目	稼働条件
CPU	2 GHz プロセッサのシングル・コア以上
RAM	512MB 以上の RAM
ディスク領域	1GB 以上のハード・ディスク空き領域
オペレーティング・システム	<p>下記のいずれか</p> <ul style="list-style-type: none"> • Microsoft Windows 2008 R2 • Microsoft Windows 7 • Microsoft Windows XP • HP Itanium (64 ビット版) <ul style="list-style-type: none"> • HPUX 11.31 このインストーラには、gzip ユーティリティが必要です。\$PATH 環境変数に gzip へのパスが設定されていることを確認してください。 • IBM AIX (64 ビット版) <ul style="list-style-type: none"> • AIX 6.1 • AIX 7.x • Linux on x64 (64 ビット版)： <ul style="list-style-type: none"> • Red Hat 5.5 • Red Hat 6.0 • SuSE Linux Enterprise Server SLES 10 • SuSE Linux Enterprise Server SLES 11 • Linux on IBM p-Series (Linux on POWER) (64 ビット版) <ul style="list-style-type: none"> • Red Hat Enterprise Linux 5.5 • Red Hat Enterprise Linux 6.0 • SuSE Linux Enterprise Server SLES 10 • SuSE Linux Enterprise Server SLES 11 • Solaris (64 ビット版) <ul style="list-style-type: none"> • Solaris 10 SPARC • Solaris 10 x64

配備のタイプ

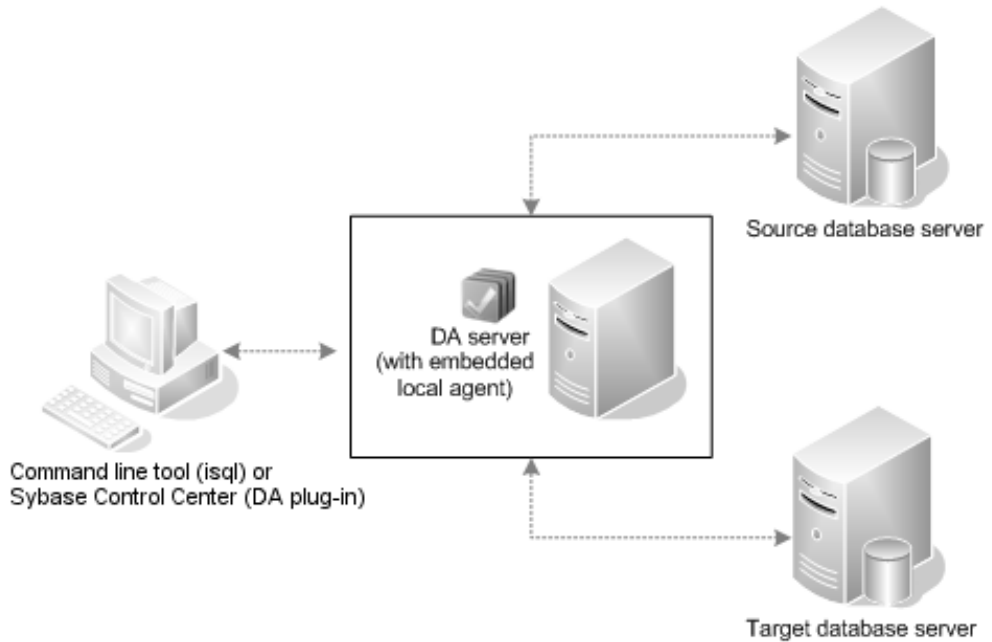
Replication Server Data Assurance (DA) オプションは、シングル・サーバまたは分散配備で設定できます。

配備タイプの選択は、パフォーマンス・ニーズとインストールの容易さおよび必要なメンテナンスによって異なります。

シングルサーバ配備

シングルサーバ配備は、1 台のマシンにインストールされた、Data Assurance (DA) サーバと DA サーバ・インストールに付属するローカル・エージェントで構成されます。ローカル・エージェントは、単純な比較用のデータベース・サーバに接続します。

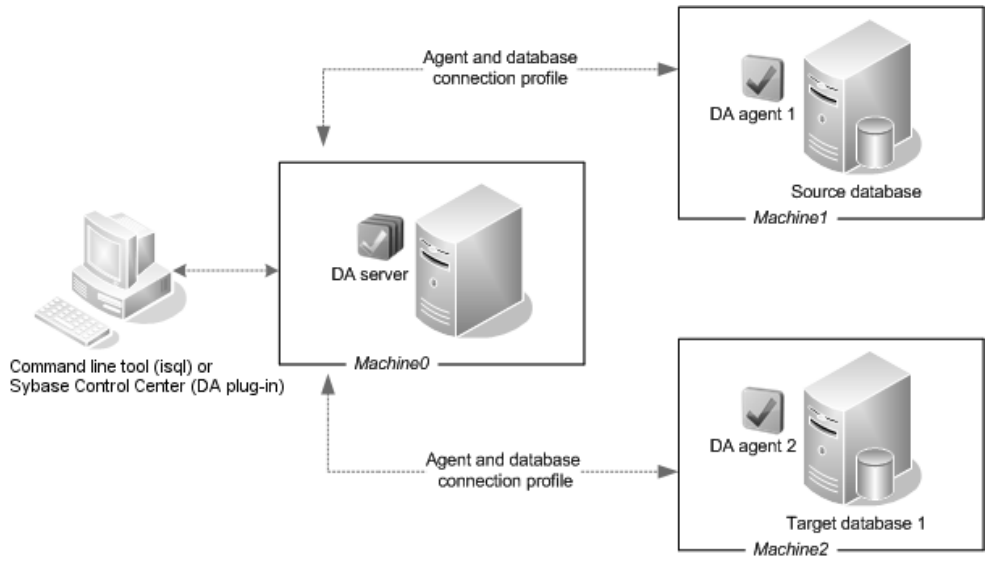
シナリオ	推奨される配備	作業
<ul style="list-style-type: none"> • DA サーバとデータベース・サーバ間のネットワーク遅延時間が少ない • 同時比較があまり必要ではない • パフォーマンスよりも配備とメンテナンスの容易さを優先する 	<p>シングルサーバ</p>	<p>DA サーバ・コンポーネントを 1 台のマシンにインストールします。</p> <p>注意： DA サーバにはユーザが使用できる組み込みのローカル・エージェントがあり、リモート DA エージェントと同じ機能を提供します。</p> <p>この方が設定は容易ですが、データベース・サーバと DA サーバ間のネットワーク接続が遅い場合、このネットワーク遅延時間により、DA ジョブの実行が遅くなります。</p> <p>埋め込みローカル・エージェントはソート作業のすべてを処理する必要があり、これが DA サーバに過剰な負荷をかけるため、シングル・サーバ配備として DA をインストールする場合には「外部ソート」オプションの使用を避けてください。</p> <p>1 つ以上の DA エージェントをシングルサーバ配備に追加し、分散配備を作成します。</p>



分散配備

分散配備は、1台のマシンにインストールされた Data Assurance (DA) サーバ、および、そのマシンまたはターゲット・データベースとソース・データベースが存在する近くのマシン (複数台) にインストールされた DA エージェントによって構成されます。DA サーバには、エージェントと、データベースの比較に必要な接続を確立するのに使用したデータベース接続プロファイルが格納されます。

シナリオ	推奨される配備	作業
<ul style="list-style-type: none"> • DA サーバとデータベース・サーバ間のネットワーク遅延時間が長い • 同時比較が多い • 外部ソート関数を使用して大規模テーブルを処理する • 配備とメンテナンスの容易さよりもパフォーマンスを優先する 	分散	<ol style="list-style-type: none"> 1. DA サーバ・コンポーネントを <i>Machine0</i> にインストールします。 2. DA エージェント・コンポーネントを <i>Machine1</i> と <i>Machine2</i> にインストールします。 3. 必要に応じて、追加の DA エージェントをその他のマシンにインストールします。パフォーマンスを最大にするために、データベース・サーバと同じマシンにスタンドアロン DA エージェントをインストールすることができます。この設定により、データベースと DA エージェントの間のネットワーク遅延時間がなくなります。一般に DA エージェントは軽量のプロセスであり、ホスト・マシンに悪影響を及ぼすことはありません。ただし、「外部ソート」オプションで使用するとき (比較するデータの選択に SQL 'order by' の使用を避けるために)、DA エージェントにより多くの CPU 時間とディスク領域が必要となる場合、望ましい設定は、スタンドアロン DA エージェントを、データベース・サーバとの高速イーサネット接続を共有する別のマシンにインストールすることです。 4. 各 DA エージェント用のエージェント接続を DA サーバ内に作成し、分散配備を完了してから、データベース・サーバに最も近い DA エージェントにデータベース接続を割り当てます。



インストールの計画

Replication Server Data Assurance オプションのインストール

選択した配備オプションを使用して、Replication Server Data Assurance (DA) オプション・サーバとエージェントをインストールします。

前提条件

Data Assurance (DA) サーバをインストールする前に、以下を識別します。

- Java RMI ポート – 外部アプリケーションが DA サーバの Java API に接続するために使用する、Java RMI ポート。デフォルトは 4500。
- TDS ポート – コマンド・ライン・ツール (CLT) または **isql** ユーティリティにより使用されるポート。デフォルトは 4501。
- DASD ポート – システム・データベースが外部接続を受け入れるように設定した場合に、システム・データベースが実行されるポート。デフォルトは 4503。

DA エージェントをインストールする前に、以下を識別します。

- Java RMI ポート – DA サーバが DA エージェントに接続するために使用する、Java RMI ポート。デフォルトは 4510。
- TDS ポート – コマンド・ライン・ツール (CLT) または **isql** ユーティリティにより使用されるポート。デフォルトは 4511。
- DTS ポート – 比較中に、DA エージェントが DA サーバに指紋をストリーム・バックするために使用するポート。デフォルトは 4512。

GUI モードでのインストール

インストーラは、対象ディレクトリを作成し、選択したコンポーネントをすべてそのディレクトリにインストールします。

DA サーバとエージェントのインストーラは、Replication Server をインストールするときに使用したのと同じ CD にあります。インストーラから 1 台のマシンに、1 台の DA サーバと 1 つの DA エージェントを一度にインストールできますが、追加の DA エージェントをインストールする場合は、インストーラを再度実行してください。DA サーバとエージェントをリモートでインストールすることはできません。このため、選択した配備によっては、1 台以上のマシンに CD をマウントしてインストールする必要がある場合があります。

1. DA サーバとエージェントをインストールするドライブに、十分なディスク領域があることを確認します。
2. Replication Server DA オプションのメディアを適切なドライブに挿入するか、Sybase 製品ダウンロード・センタ (SPDC) または SAP サービス・マーケットプレイス (SMP) からインストール・イメージをダウンロードして抽出します。
3. (Windows) **setup** プログラムを起動します。

注意： インストーラが自動的に起動しない場合は、`setup.exe` をダブルクリックするか、[スタート]>[ファイル名を指定して実行]を選択して次のように入力します。

```
x:¥da_installer¥setup.exe
```

ここで *x* は CD ドライブです。

テンポラリー・ディスク領域のディレクトリでディスク領域が不足している場合は、環境変数 `TMP` を `directory_name` に設定します。ここで、`directory_name` は、インストール・プログラムがテンポラリー・インストール・ファイルを書き込むテンポラリー・ディレクトリの名前です。次に例を示します。

```
set TMP=C:¥WINDOWS¥Temp
```

`directory_name` を指定する場合は、そのフル・パスを指定します。`setup.exe` を再実行します。

4. (UNIX) SPDC または SMP から製品をダウンロードした場合は、インストール・イメージを抽出したディレクトリに移動してから、インストーラを起動します。

```
./da_installer/setup.bin
```

CD からインストールする場合は、CD をマウントし、インストーラを起動します。

注意： `mount` コマンドのロケーションはサイトごとに異なるため、以下に示すロケーションとは異なる場合があります。表示されているパスを使用しても CD ドライブをマウントできない場合は、ご使用のオペレーティング・システムのマニュアルを参照するか、システム管理者に問い合わせてください。

- HP-UX Itanium の場合

- a) ログアウトしてから "root" 権限でログインし、次のコマンドを使用して CD をマウントします。

```
mount -F cdfs -o ro device_name /mnt/cdrom
```

- b) "root" 権限でログアウトし、"sybase" 権限で再びログインします。
- c) 次のコマンドを入力して、インストーラを起動します。


```
cd /cdrom
./da_installer/setup.bin
```

- IBM AIX の場合

- a) “sybase” としてログインし、次のように CD をマウントします。

```
mount -v 'cdrfs' -r device_name /mnt/cdrom
```

- b) 次のコマンドを入力して、インストーラを起動します。

```
cd /device_name
./da_installer/setup.bin
```

- Solaris の場合

- a) オペレーティング・システムによって、CD は自動的にマウントされま
す。“sybase” としてログインします。

注意： CD の読み込みエラーが発生した場合は、オペレーティング・システム
のカーネルをチェックして、ISO 9660 オプションがオンになっているこ
とを確認してください。

CD を使用してシステムに Sybase 製品がすでにインストールされている場
合、# 記号は、インストール・プロセスの妨げとなります。現在の CD を使
用する前に、次のいずれかを実行してください。

- システムを再起動する。または、
- CD を取り出す。/vol/dsk にある *Volume Label* ファイルを削除し、CD
を再度挿入する。

- b) 次のコマンドを入力して、インストーラを起動します。

```
cd /cdrom/Volume Label
./da_installer/setup.bin
```

- Linux および Linux on POWER の場合

- a) “sybase” としてログインし、次のように CD をマウントします。

```
# mount -t iso9660 /dev/cdrom /mnt/cdrom
```

- b) 次のコマンドを入力して、インストーラを起動します。

```
cd /mnt/cdrom
./da_installer/setup.bin
```

構文の説明は次のとおりです。

- *cdrom* および */mnt/cdrom* は、CD ドライブをマウントしたときに指定した
ディレクトリ (マウント・ポイント) です。
- *device_name* は、CD デバイス・ドライブの名前です。
- *setup.bin* は、Replication Server DA オプションをインストールする実
行ファイル名です。

環境変数 *IATEMPDIR* を *tmp_dir* に設定します。ここで、*tmp_dir* は、インス
トール・プログラムがテンポラリ・インストール・ファイルを書き込むテ

ンポラリ・ディレクトリです。たとえば、C シェルの場合は、次のように入力します。

```
setenv IATEMPDIR "/usr/bin/tmp_dir"
```

tmp_dir を指定する場合は、そのフル・パスを指定します。setup.bin を再実行します。

5. [開始画面] ウィンドウで、[次へ] をクリックします。
6. 地域を選択し、ライセンス契約に同意したら、[次へ] をクリックします。
7. Replication Server DA オプションをインストールする場所を指定し、[次へ] をクリックします。
8. インストール・セットを選択し、[次へ] をクリックします。

オプション	説明
[Data Assurance サーバ]	DA サーバをインストールする。
[Data Assurance エージェント]	DA エージェントをインストールする。最高のパフォーマンスを得るためには、データベースの存在するマシンに DA エージェントをインストールすることをおすすめします。

9. DA サーバ、または DA エージェントの構成設定を指定します。

表 2 : DA サーバ

カラム名	説明
Data Assurance サーバのインスタンス名	DA サーバ・インスタンスのユニークな名前には、以下の制約があります。 <ul style="list-style-type: none"> • ブランクは不可。 • アルファベット、数字、アンダースコアだけで構成する。 • 文字数は 30 以下にする。 デフォルトは、myserver です。
Data Assurance サーバのパスワード	DA サーバ・ログイン da_admin のパスワードには、以下の制約があります。 <ul style="list-style-type: none"> • 文字数は 6 ~ 30 でなければならない。 • アルファベット、数字、ハイフン、アンダースコアだけで構成する。 デフォルト値は<ブランク>です。

カラム名	説明
Data Assurance サーバの確認パスワード	パスワードが選択したパスワードと一致しないと、インストールを続行できません。 デフォルト値は<ブランク>です。
Data Assurance サーバの RMI ポート	外部アプリケーションが、Sybase Control Center for Data Assurance などの DA サーバの Java API に接続するために使用する、Java RMI ポート。 デフォルト値は 4500
Data Assurance サーバの TDS ポート	コマンド・ライン・ツール (CLT) または isql ユーティリティにより使用されるポート。 デフォルト値は 4501
Data Assurance サーバの DASD 名	システム・データベースのユニークな名前には、以下の制約があります。 <ul style="list-style-type: none"> ブランクは不可。 アルファベット、数字、アンダースコアだけで構成する。 文字数は 30 以下にする。 デフォルト値は dasd です。
Data Assurance サーバの DASD パスワード	システム・データベースのパスワードには、以下の制約があります。 <ul style="list-style-type: none"> 文字数は 6～30 でなければならない。 アルファベット、数字、ハイフン、アンダースコアだけで構成する。 デフォルト値は<ブランク>です。
Data Assurance サーバの確認 DASD パスワード	このパスワードは、システム・データベース・パスワード用に選択したパスワードと一致する必要があります。 デフォルト値は<ブランク>です。
Data Assurance サーバの DASD ポート	システム・データベースが実行されるポート。 デフォルト値は 4503 注意： デフォルトでは、システム・データベースは外部接続を受け入れるように設定されていません。そのため、このポートは使用されません。

表 3 : DA エージェント

カラム名	説明
Data Assurance エージェントのインスタンス名	DA エージェント・インスタンスのユニークな名前には、以下の制約があります。 <ul style="list-style-type: none"> • ブランクは不可。 • アルファベット、数字、アンダースコアだけで構成する。 • 文字数は 30 以下にする。 デフォルト値は myagent です。
Data Assurance エージェントのパスワード	(必須) DA エージェント・ログイン da_admin のパスワードには、以下の制約があります。 <ul style="list-style-type: none"> • 文字数は 6 ~ 30 でなければならない。 • アルファベット、数字、ハイフン、アンダースコアだけで構成する。 デフォルト値は<ブランク>です。
Data Assurance エージェントの確認パスワード	(必須) パスワードが選択したパスワードと一致しないと、インストールを続行できません。 デフォルト値は<ブランク>です。
Data Assurance エージェントの RMI ポート	DA サーバが DA エージェントに接続するために使用する、Java RMI ポート。 デフォルト値は 4510
Data Assurance エージェントの TDS ポート	コマンド・ライン・ツール (CLT) または isql ユーティリティにより使用されるポート。 デフォルト値は 4511
Data Assurance エージェントの DTS ポート	比較中に、DA エージェントが DA サーバにデータをストリーム・バックするために使用するポート。 デフォルト値は 4512

DA エージェントのみをインストールする場合は、手順 12 に進んでください。

10. [Sybase ソフトウェア資産管理ライセンス設定] ウィンドウで、次のいずれかのオプションを選択します。

オプション	説明
[サブド・ライセンス]	ライセンス・サーバをすでに配備している場合、ライセンス・サーバが稼働しているマシンのホスト名と、使用しているポート番号がデフォルトでない場合はそのポート番号を入力します。

オプション	説明
[アンサーブド・ライセンス]	(デフォルト) アンサーブド・ライセンスを置くディレクトリを指定するか、またはデフォルトを受け入れます。

30 日の猶予期間中は、ライセンスなしでも Replication Server DA オプション・コンポーネントをインストールして使用できます。猶予期間後にもこれらのコンポーネントを使用し続けるには、有効なライセンスを取得してください。『SySAM ユーザーズ・ガイド』を参照してください。

[次へ] をクリックします。

11. 必要に応じて、SySAM 電子メール構成を設定します。[次へ] をクリックします。
12. インストール概要情報を確認し、[インストール] をクリックします。
13. インストールが完了したら、[完了] をクリックします。

次のステップ

インストール後に問題が発生した場合は、log ディレクトリにあるログ・ファイルを確認してください。

- Windows の場合
%SYBASE%\log
- UNIX の場合
\$SYBASE/log

コマンド・ラインからのインストール

インタフェースにウィンドウ操作を使用しない場合やカスタム・インストール・スクリプトを作成する場合は、コマンド・ライン・インストールを選択します。

前提条件

インストーラが自動的に起動する場合は、[キャンセル] をクリックして GUI インストーラをキャンセルし、端末またはコンソールから **setup** プログラムを起動します。

手順

コンポーネントを対話型テキスト・モードでインストールする手順は、**setup -i console** を使用してコマンド・ラインからインストーラを実行する点と、テキストを入力してオプションを指定する点を除き、GUI モードの手順と同じです。

注意： Windows の場合、コンソール・モードまたはサイレント・モードでインストールする場合は、`setupConsole.exe` を使用します。

1. コマンド・プロンプトから、コンソール・モードでインストーラを起動します。

- Windows の場合

```
x:¥da_installer¥setupConsole.exe -i console
```

`x` はインストーラの場所です。

- UNIX の場合

```
./da_installer/setup.bin -i console
```

2. 以後の画面指示に従います。出力が端末ウィンドウに書き込まれるので、キーボードを使用して応答を入力します。

応答ファイルを使用したインストール

サイレント (無人) インストールを実行するには、インストーラを実行し、インストール設定情報が含まれる応答ファイルを指定します。

通常、企業全体で複数のシステムを更新する場合は、無人 (サイレント) インストールを実行します。

応答ファイルの作成

インストール時の応答を応答ファイルに記録します。この応答ファイルは編集可能なテキスト・ファイルであり、今後のインストールで使用する前に応答を変更できます。

GUI モードまたはコンソール・モードでインストールする場合、`-r` 引数を指定することで、インストール・ウィザードのプロンプトへの応答が記録され、インストール・ウィザードの終了時に応答ファイルが作成されます。

インストール時に応答ファイルを生成するには、次のコマンドを入力します。

- Windows の場合

```
x:¥da_installer¥setup.exe -r responseFileName
```

注意： Windows の場合、コンソール・モードまたはサイレント・モードでインストールする場合は、`setupConsole.exe` を使用します。

- UNIX の場合

```
./da_installer/setup.bin -r responseFileName
```

ここで、`responseFileName` は応答ファイル用に選択するファイル名であり、`x` はインストーラの場所です。応答ファイルの名前を指定する場合は、そのフル・パスを指定します。次に例を示します。

```
C:¥Sybase¥REP¥ResponseFile.txt
```

サイレント・モードでのインストール

サイレント・インストールではユーザによる操作は必要ありません。インストールの設定情報はすべて応答ファイルから取得されます。これは、複数の同一インストールを行う場合、またはインストールを完全に自動化する場合に役立ちます。

前提条件

インストール応答ファイルを作成します。

手順

インストール・ディレクトリに移動し、次のように入力します。

- Windows の場合

```
setupConsole.exe -f responseFileName -i silent
-DAGREE_TO_SYBASE_LICENSE=true
```

- UNIX の場合

```
./setup.bin -f responseFileName -i silent
-DAGREE_TO_SYBASE_LICENSE=true
```

構文の説明は次のとおりです。

- *responseFileName* – 選択したインストール・オプションを含むファイル名の絶対パス。
- **-D** – インストール・パラメータの値をインストーラに渡す。

インストーラの動作はすべて同じです。サイレント・モードのインストール結果は、GUI モードで同じ応答を行った場合とまったく同じになります。

注意：サイレント・モードでのインストール時に、Sybase ライセンス契約に同意する必要があります。次のいずれかの方法を使用できます。

- オプション `-DAGREE_TO_SYBASE_LICENSE=true` をコマンド・ライン引数に含める。
- 応答ファイルを編集して、プロパティ `AGREE_TO_SYBASE_LICENSE=true` を含める。

コマンド・ライン・オプション

コンソール・モードで Data Assurance (DA) をインストールまたはアンインストールする場合のオプション

オプション	目的
<code>-i swing</code>	GUI モードを使用する。

オプション	目的
-i console	コンソール interface モードを使用する。このモードでは、インストール中のメッセージは Java コンソールに表示され、ウィザードはコンソール・モードで実行される。
-i silent	製品をサイレント・モードでインストールまたはアンインストールする。インストールまたはアンインストールはユーザとの対話なしで実行される。
-D	<p>カスタム変数およびプロパティを渡す。たとえば、インストーラの実行時にデフォルトのインストール・ディレクトリを上書きするには、次のように入力する。</p> <ul style="list-style-type: none"> Windows の場合 <pre>install_launcher_name -DUSER_INSTALL_DIR=C:¥Sybase</pre> UNIX の場合 <pre>install_launcher_name -DUSER_INSTALL_DIR=/sybase</pre>
-r	応答ファイルと参照を生成する。
-f	応答ファイルを参照する。
-l	インストーラのロケールを設定する。使用可能なロケールは、en、ja、および zh_CN です。
-¥?	インストーラのヘルプを表示する。

インストール後の使用の開始

Replication Server Data Assurance (DA) オプションをインストールした後、DA サーバとエージェント、**isql** を起動し、接続プロファイルを作成する必要があります。

注意： Replication Server DA のバージョン 15.5 以降は、DA-15_5 という名前のディレクトリにインストールされます。

1. Data Assurance (DA) サーバとエージェントの起動次のように入力します。

- DA サーバ

- Windows 32 ビット版の場合

```
%SYBASE%\DA-15_5\server\instance\RUN_instance_32.bat
```

- Windows 64 ビット版の場合

```
%SYBASE%\DA-15_5\server\instance\RUN_instance_64.bat
```

- UNIX 64 ビット版の場合

```
$(SYBASE)/DA-15_5/server/instance/RUN_instance_64.sh
```

- DA エージェント

- Windows 32 ビット版の場合

```
%SYBASE%\DA-15_5\agent\instance\RUN_instance_32.bat
```

- Windows 64 ビット版の場合

```
%SYBASE%\DA-15_5\agent\instance\RUN_instance_64.bat
```

- UNIX 64 ビット版の場合

```
$(SYBASE)/DA-15_5/agent/instance/RUN_instance_64.sh
```

2. 管理者として、**isql** から DA サーバにログインします。

```
$(SYBASE)/OCS-15_0/bin/isql -S host:4501 -U da_admin -P password -w 250
```

ここで、*host* は DA サーバがインストールされているマシンの名前です。DA サーバは 1 つのログイン、*da_admin* のみをサポートします。これにはすべての管理者権限が割り当てられています。4501 は DA サーバのデフォルトの TDS ポート番号です。

ヒント： パスワードを暗号化するには **-X** オプションを使用します。たとえば、次のようにします。

```
$(SYBASE)/OCS-15_0/bin/isql -S host:4501 -U da_admin -P password -X
```

コマンド・ラインから **shutdown** コマンドを発行することにより、DA サーバを停止できます。

3. **create agent** を使用して、エージェント接続プロファイルを作成します
(『Replication Server Data Assurance オプション・ユーザーズ・ガイド』を参照)。
エージェント接続プロファイルを使用すると、DA サーバが、データベース・アクセス用のスタンドアロン DA エージェントを使用できるようになります。

注意：サーバを1台だけ配備している場合は、接続プロファイルを作成する必要はありません。

4. **create connection** を使用して、データベース・コネクションを作成します
(『Replication Server Data Assurance オプション・ユーザーズ・ガイド』を参照)。
データベース接続プロファイルでは、比較されるプライマリ・データベースとレプリケート・データベースを指定します。

Replication Server Data Assurance オプションのアンインストール

製品を GUI モード、コンソール・モード、またはサイレント・モードでアンインストールします。

前提条件

アンインストーラを起動する前に、実行中のすべての DA コンポーネントを終了してください。

GUI モードでのアンインストール

Replication Server Data Assurance (DA) オプション・サーバとエージェントをアンインストールします。

DA サーバとエージェントをリモートでアンインストールすることはできません。このため、コンポーネントをインストールした各マシンでアンインストーラを実行する必要があります。

1. Windows の場合、次のいずれかを選択します。

- [スタート]> [設定]> [コントロール パネル]> [プログラムの追加と削除] を選択します。
- コマンド・ラインで次のように入力します。

```
%SYBASE%\sybuninstall\da\uninstall.exe
```
- [スタート]> [ファイル名を指定して実行] をクリックし、次のように入力します。

```
%SYBASE%\sybuninstall\da\uninstall.exe
```
- Windows エクスプローラを開き、%SYBASE%\sybuninstall\da に移動して、uninstall.exe をダブルクリックします。

2. UNIX の場合、次のように入力します。

```
$SYBASE/sybuninstall/da/uninstall
```

3. [次へ] をクリックします。

4. 次のいずれかを選択します。

オプション	説明
[完全アンインストール]	すべてのコンポーネントを完全に削除します。インストール後に作成されたファイルやフォルダは影響を受けません。
[特定の機能のアンインストール]	アンインストールするコンポーネントを選択できます。

[次へ] をクリックします。

5. アンインストール概要情報を確認し、[次へ] をクリックします。

注意： SySAM ライセンス・サーバを使用する場合は、SySAM ライセンス・ユーティリティをアンインストールしないでください。

6. [完了] をクリックします。

コンソール・モードでのアンインストール

コンソール・モードで、Replication Server Data Assurance (DA) オプション・サーバとエージェントをアンインストールします。

1. インストール・ディレクトリに移動し、次のように入力します。

- Windows の場合

```
%SYBASE%\sybuninstall\da\uninstall.exe -i console
```

- UNIX の場合

```
$SYBASE/sybuninstall/da/uninstall -i console
```

2. 以後の画面指示に従います。出力が端末ウィンドウに書き込まれるので、キーボードを使用して応答を入力します。

注意： 共有ファイルを削除するよう指示するプロンプトが表示された場合は、これらを削除しないことをおすすめします。

サイレント・モードでのアンインストール

サイレント・モードで、Replication Server Data Assurance (DA) オプション・サーバとエージェントをアンインストールします。

インストール・ディレクトリに移動し、次のように入力します。

- Windows の場合

```
%SYBASE%\sybuninstall\da\uninstall.exe -i silent
```

- UNIX の場合

```
$SYBASE/sybuninstall/da/uninstall -i silent
```

注意： インストーラ以外で作成したファイルを削除するよう指示するプロンプトが表示された場合は、これらを削除しないことをおすすめします。

アップグレードの考慮事項

Replication Server Data Assurance オプション 15.6 以降を Replication Server Data Assurance オプション 15.7.1 にアップグレードできます。Replication Server Data Assurance オプションをアップグレードする前に、これらのアップグレードの考慮事項を確認してください。

Windows [スタート] メニューのショートカット

最初に以前のバージョンをアンインストールしないで、Replication Server Data Assurance オプション 15.7.1 をアップグレードする場合、Windows の [スタート] メニューには Replication Server Data Assurance オプション 15.6 または 15.7 へのショートカットが (以前のバージョンが上書きされた場合でも) 残っています。

これを避けるには、15.7.1 にアップグレードする前に、以前のバージョンをアンインストールします。

インストーラ・パラメータ

Replication Server Data Assurance オプションのインストーラには、DASD パスワードを設定するための 2 つのパラメータが含まれています。

DA_SERVER_DASD_PASSWORD および
DA_SERVER_DASD_PASSWORD_CONFIRM です。

GUI インストール・モードとコンソール・インストール・モードでは、これらのパラメータ値の入力を求めるプロンプトが表示されます。しかし、サイレント・モードで Replication Server Data Assurance オプション 15.6 からのインストール応答ファイルを使用してアップグレードする場合は、以下の 2 行をインストール応答ファイルに追加してからアップグレードしてください。

```
DA_SERVER_DASD_PASSWORD=sybase  
DA_SERVER_DASD_PASSWORD_CONFIRM=sybase
```

以前のインストールの上書き

Replication Server Data Assurance オプション 15.7.1 は Replication Server Data Assurance オプション 15.6 および 15.7 データ構造と下位互換性があります。ただし、既存のインストールを上書きする場合には追加の考慮事項があります。

既存のファイルの上書き

Replication Server Data Assurance オプションをアップグレードまたは再インストールすると、インストーラによって、以前のインストールによる大半の既存のファイルは上書きされます。

以下にあるファイルは、インストールによって上書きされません。

- `$SYBASE/DA-15_5/server/instanceName/security/`
または
- `$SYBASE/DA-15_5/agent/instanceName/security/`

このため、以前に選択された Data Assurance 管理者 (da_admin) または DASD 管理者 (dba) のパスワードは更新されません。

インストーラは以前にインストールされた JAR ファイルを、より最新のファイルで置き換えます。これらのファイルが削除された後は、以前のバージョンにダウングレードすることはできません。

Replication Server Data Assurance オプション 15.7.1 を以前のバージョンの上にインストールすると、インストール・ログが上書きされます。ここには以前のバージョンで使用したインストール・パラメータ値の記録が含まれています。アップグレードの前に、log ディレクトリをコピーしておくことができます。

Replication Server Data Assurance オプション 15.7.1 を以前のバージョンの上にインストールすると、アンインストーラ・ファイルも上書きされます。このため、以前のアンインストーラは使用できなくなります。

インストール設定の保持

インストーラにより、インスタンス名とポート番号などの既存のインストール設定の一部は読み込まれます。しかし、SySAM ライセンス設定などのその他の設定の大半は読み込まれません。

Replication Server Data Assurance オプションを、既存のインストールの上にバージョン 15.7.1 をインストールしてアップグレードする場合、同じ既存のインストール設定を使用してください。これらの設定は、以前のバージョンのインストール応答ファイルから得られます。

構成設定

アップグレードまたは再インストールでは、インストーラによって、以前のインストールからの構成設定が使用されます。

インストーラは、DA をインストールするための \$SYBASE ディレクトリを自動的に検索します。複数のインスタンスがある場合、インストーラは、最後に更新された有効なインスタンス・ディレクトリを使用します。「有効な」インスタン

ス・ディレクトリには、ディレクトリのインスタンス名と一致する、読み込み可能な設定ファイルが含まれている必要があります。たとえば次のようになります。

```
$$SYBASE/DA-15_5/server/instance/instance.cfg
```

または、

```
$$SYBASE/DA-15_5/agent/instance/instance.cfg
```

インストーラは、インスタンス名、RMI ポート、TDS ポート、DTS ポート、DASD 名、および DASD ポートに対しては既存の値を使用します。インストーラ・モードにより、これらの既存の値は異なる方法で処理されます。

- GUI – 既存の設定値はグレー表示され、変更できません。
- サイレント – サイレント・インストール・パラメータは無視され、次の警告メッセージが DA ログ・ファイルに追加されます。

```
Using the config variables from the existing installation.
```

- コンソール – DA サーバ入力値のプロンプトを表示せず、次のメッセージを表示します。

```
Using the config values from the existing installation
(server instance instance)
```

\$\$SYBASE/DA-15_5/server/instance/security にある既存のパスワード・ファイルは、インストーラによって上書きされません。インストーラ・モードにより、パスワード・ファイルは異なる方法で処理されます。

- GUI – パスワード・フィールドはグレー表示され、変更できません。
- サイレント – サイレント・インストール・パラメータは無視され、次の警告メッセージが DA ログ・ファイルに追加されます。警告メッセージは見つかったパスワード・ファイルにより異なります。

```
Not using the given da_admin password, as an existing installation
has been found.
```

および/または、

```
Not using the given DASD password, as an existing installation has
been found.
```

- コンソール – DA サーバ入力値のプロンプトを表示せず、次のメッセージを表示します。メッセージは見つかったパスワード・ファイルにより異なります。
- ```
Using the password settings from the existing installation.
```

および/または、

```
Using the DASD password settings from the existing installation.
```

## 新しいインスタンス名

デフォルトでは、インストーラは、既存の DA インストール用の \$\$SYBASE ディレクトリを自動的に検索し、最後に更新された有効なインスタンス・ディレクトリ

## アップグレードの考慮事項

からの設定値を使用します。アップグレードまたは再インストール用に、同じディレクトリにもう 1 つインスタンスをインストールできます。

同じ \$SYBASE ディレクトリにもう 1 つのインスタンスをインストールするには、インストーラが自動的に既存のディレクトリを選択することを止め、新しいインスタンス名を使用するよう強制する必要があります。既存のインストールに対して新しいインスタンス名を選択する場合、インストール・プロセスは、既存の設定値を再利用するアップグレードと類似しています。

---

**注意：** 同じ種類の複数のインスタンスを同じフォルダ構造でインストールしないことをおすすめします。インストーラのレジストリには、最後にインストールされたインスタンスが記録されます。DA をアンインストールすると、最後に作成されたインスタンスが削除されます。

---

エージェントまたはサーバのインスタンス名を指定し、次のコマンドを発行します。

- DA サーバ：
  - GUI モード  

```
setup.exe/bin -i swing -DDA_SERVER_INSTANCE_NAME=myserver2
```
  - コンソール・モード  

```
setup.exe/bin -i console -DDA_SERVER_INSTANCE_NAME=myserver2
```
  - サイレント・モード – サイレント・インストール・プロパティ・ファイルの **DA\_SERVER\_INSTANCE\_NAME** に、既存のインスタンスではなく、別のインスタンス名を使用します。
- DA エージェント – **DA\_AGENT\_INSTANCE\_NAME** パラメータを使用します。

## Java Runtime Environment

---

Replication Server Data Assurance オプション 15.7.1 用のインストーラは、JRE 6.0 Update 24 をインストールします。しかし、Replication Server Data Assurance オプション 15.6 で使用される JRE 6.0 Update 20 は削除しません。ただし、対応するレジストリ・エントリには JRE 6.0 Update 24 のみが示されます。

## 追加の説明や情報の入手

Sybase Getting Started CD、製品マニュアル Web サイト、オンライン・ヘルプを利用すると、この製品リリースについて詳しく知ることができます。

- Getting Started CD (またはダウンロード) – PDF フォーマットのリリース・ノートとインストール・ガイド、その他のマニュアルや更新情報が収録されています。
- Sybase 製品マニュアル Web サイト (<http://sybooks.sybase.com/>) にある製品マニュアルは、Sybase マニュアルのオンライン版であり、標準の Web ブラウザを使用してアクセスできます。マニュアルはオンラインで参照することも PDF としてダウンロードすることもできます。この Web サイトには、製品マニュアルの他に、EBFs/Maintenance、Technical Documents、Case Management、Solved Cases、Community Forums/Newsgroups、その他のリソースへのリンクも用意されています。
- 製品のオンライン・ヘルプ (利用可能な場合)

PDF 形式のドキュメントを表示または印刷するには、Adobe の Web サイトから無償でダウンロードできる Adobe Acrobat Reader が必要です。

---

**注意：** 製品リリース後に追加された製品またはマニュアルについての重要な情報を記載したさらに新しいリリース・ノートを製品マニュアル Web サイトから入手できることがあります。

---

## サポート・センタ

---

Sybase 製品に関するサポートを得ることができます。

組織でこの製品の保守契約を購入している場合は、サポート・センタとの連絡担当者が指定されています。マニュアルだけでは解決できない問題があった場合には、担当の方を通して Sybase 製品のサポート・センタまでご連絡ください。

## Sybase EBF と Maintenance レポートのダウンロード

---

Sybase Web サイトまたは SAP® サービス・マーケットプレイス (SMP) から、EBF レポートとメンテナンス・レポートを入手します。これらの場所は製品を購入した方法によって異なります。

- Sybase 認定販売店から製品を直接購入した場合：

## 追加の説明や情報の入手

- a) Web ブラウザで <http://www.sybase.com/support> を指定します。
- b) [Support] > [EBFs/Maintenance] を選択します。
- c) MySybase のユーザ名とパスワードを入力します。
- d) (オプション) フィルタ、時間枠のいずれかまたはその両方を選択して [Go] をクリックします。
- e) 製品を選択します。

鍵のアイコンは、認可されたサポート・コンタクトとして登録されていないため、一部の EBF/Maintenance リリースをダウンロードする権限がないことを示しています。未登録ではあるが、Sybase 担当者またはサポート・センタから有効な情報を得ている場合は、[My Account] をクリックして、「Technical Support Contact」の役割を MySybase プロファイルに追加します。

- f) EBF/Maintenance レポートを表示するには [Info] アイコンをクリックします。ソフトウェアをダウンロードするには製品の説明をクリックします。
- Sybase 製品を SAP コントラクトから購入した場合：
    - a) Web ブラウザで <http://service.sap.com/swdc> を指定します。
    - b) [Search for Software Downloads] を選択し、製品名を入力します。[Search] をクリックします。

## Sybase 製品およびコンポーネントの動作確認

---

動作確認レポートは、特定のプラットフォームでの Sybase 製品のパフォーマンスを検証します。

動作確認に関する最新情報は次のページにあります。

- パートナー製品の動作確認については、[http://www.sybase.com/detail\\_list?id=9784](http://www.sybase.com/detail_list?id=9784) にアクセスします。
- プラットフォームの動作確認については、<http://certification.sybase.com/ucr/search.do> にアクセスします。

## MySybase プロファイルの作成

---

MySybase は無料サービスです。このサービスを使用すると、Sybase Web ページの表示方法を自分専用カスタマイズできます。

1. <http://www.sybase.com/mysybase> を開きます。
2. [Register Now (今すぐ登録)] をクリックします。

## アクセシビリティ機能

---

アクセシビリティ機能を使用すると、身体障害者を含むすべてのユーザーが電子情報に確実にアクセスできます。

Sybase 製品のマニュアルには、アクセシビリティを重視した HTML 版もあります。

オンライン・マニュアルは、スクリーン・リーダーで読み上げる、または画面を拡大表示するなどの方法により、視覚障害を持つユーザがその内容を理解できるよう配慮されています。

Sybase の HTML マニュアルは、米国のリハビリテーション法第 508 条のアクセシビリティ規定に準拠していることがテストにより確認されています。第 508 条に準拠しているマニュアルは通常、World Wide Web Consortium (W3C) の Web サイト用ガイドラインなど、米国以外のアクセシビリティ・ガイドラインにも準拠しています。

---

**注意：**アクセシビリティ・ツールを効率的に使用するには、設定が必要な場合もあります。一部のスクリーン・リーダーは、テキストの大文字と小文字を区別して発音します。たとえば、すべて大文字のテキスト (ALL UPPERCASE TEXT など) はイニシャルで発音し、大文字と小文字の混在したテキスト (Mixed Case Text など) は単語として発音します。構文規則を発音するようにツールを設定すると便利かもしれませんが。詳細については、ツールのマニュアルを参照してください。

---

Sybase のアクセシビリティに対する取り組みについては、次の Sybase Accessibility サイトを参照してください。 <http://www.sybase.com/products/accessibility>。このサイトには、第 508 条と W3C 標準に関する情報へのリンクもあります。

製品マニュアルには、アクセシビリティ機能に関する追加情報も記載されています。

追加の説明や情報の入手

## 索引

## C

CPU 要件 5

## G

GUI モード

Replication Server Data Assurance エージェントのインストール 11

Replication Server Data Assurance サーバのインストール 11

Replication Server DA オプション・エージェントのアンインストール 23

Replication Server DA オプション・サーバのアンインストール 23

## I

isql ユーティリティ 11

## R

RAM 要件 5

Replication Server Data Assurance オプション GUI モードでの 11

Replication Server Data Assurance オプション・インストール・メディアのマウント 11

Replication Server Data Assurance オプション・エージェント コンソール・モード 17

Replication Server Data Assurance オプション・サーバ コンソール・モード 17

## S

SAP サービス・マーケットプレイス (SMP) 1, 11

SYBASE\_SAM\_CAPACITY 4

Sybase 製品ダウンロード・センタ (SPDC) 1, 11

SySAM

サブキャパシティ・ライセンス 3

SySAM サブキャパシティ 3

稼動条件 4

SySAM ライセンス・サーバ 1

## あ

アップグレードの考慮事項 27

JRE 30

Windows ショートカット 27

新しいインスタンス名 29

以前のインストールの上書き 27

インストーラ・パラメータ 27

インストール応答ファイル 28

インストール設定の保持 28

インストール・モード 28

既存のファイルを上書き 28

構成設定 28

バック・アップ・ログ・ディレクトリ 28

アンインストール

GUI モード、Replication Server Data

Assurance オプション・エージェント 23

GUI モード、Replication Server Data

Assurance オプション・サーバ 23

コンソール・モード、Data Assurance エージェント 24

コンソール・モード、Data Assurance サーバ 24

サイレント・モード、Replication Server Data Assurance オプション・エージェント 24

サイレント・モード、Replication Server Data Assurance オプション・サーバ 24

アンサーブド・ライセンス・モデル 1

## 索引

### い

#### インストール

GUI モード 11

Replication Server Data Assurance オプション 11

Replication Server Data Assurance オプションの CD または DVD、マウント 11

インストール前の作業 11

応答ファイルの使用 18

起動 11

計画 1

サイレント・モードでの Replication Server Data Assurance オプション・サーバとエージェント 19

配備オプション 11

配備のタイプ 6

標準のソフトウェア・コンポーネント 11

インストール後 21

インストール前の作業 1

### え

#### エラー

インストーラの起動時 11

### お

応答ファイル

作成 18

オペレーティング・システムの稼働条件 5

### か

#### 環境変数

SYBASE\_SAM\_CAPACITY 4

#### 関係図

シングルサーバ配備 6

分散配備 7

### き

既存のファイルを上書き

アンインストーラ・ファイル 28

#### 起動

インストール 11

### こ

#### 構成設定

設定ファイル 28

ログ・ファイル 28

コマンド・ライン・ツール (CLT) 11

#### コンソール・モード

Data Assurance エージェントのアンインストール 24

Data Assurance サーバのアンインストール 24

Replication Server Data Assurance オプション・エージェントのインストール 17

Replication Server Data Assurance オプション・サーバのインストール 17

### さ

サブド・ライセンス・モデル 1

#### サイレント・モード

Replication Server Data Assurance オプション・エージェントのアンインストール 24

Replication Server Data Assurance オプション・サーバのアンインストール 24

#### 作成

応答ファイル 18

### し

システム稼働条件 5

### て

ディスク領域の要件 5

ディレクトリ

デフォルト 11

デフォルト・ディレクトリ 11

### は

ハードウェアの要件 5



## ふ

プラットフォーム  
    mount コマンド 11  
プラットフォームごとの mount コマンド 11

## ゆ

ユーティリティ  
    isql 11  
    sysamcap 4

## よ

要件  
    CPU 5

## RAM 5

オペレーティング・システム 5  
ディスク領域 5  
ハードウェア 5

## ら

ライセンス 2  
    サブキャパシティ 3, 4  
ライセンス、取得 1  
ライセンス契約 11  
ライセンスの Sybase ソフトウェア資産管理 1

